

令和4年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：准教授

氏名：田 昌禾

<p>研究課題名</p>	<p>ウィズ (WITH) コロナ時代と観光</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>令和4年度の個人研究の目的及び研究概要は以下のようである。 2019年12月に発生した新型コロナウイルス危機は、未だに全世界的に持続的に発生しており、安心・信頼できない懸念の声が続いている。観光は21世紀の経済発展政策の一つとして位置づけられている。しかし、様々な危機により、観光はリスクと併存する時代となりつつある。そこで、本研究では、観光危機におけるリスクの意義や概念について考察し、とくにウィズコロナ時代の新しい観光スタイルの現状と今後を迫及していくことにする。 また、研究の目的は観光と危機管理を考究しつつ、ウィズコロナ時代の新しい観光スタイルの政策や戦略を提示することを、最終目的とする。新型コロナウイルス危機による観光は、人の活動が制限され、経済が停滞し、あらゆる産業への被害が発生している。このような状況を把握し分析することで、ウィズコロナ時代の新しい観光スタイルとして成長発展・多様化する観光への方向を提示できる。</p>
<p>研究実績の 概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>【研究の進捗状況】 令和4年度の個人研究は、新型コロナウイルスの流行が継続しているため、観光研究の成長や発展が困難であったが、WITHコロナ時代における新しい観光スタイルのための政策や戦略を提示している。</p> <p>【得られた成果】 ウィズ&アフターコロナ社会における日本の観光立国の復活に関する考察を行い、ウィズコロナ時代において新たな観光スタイルを成長させ、多様化させるための方向性を提示している。</p> <p>【今後の課題】 令和2年度にできなかった「関東・関西地域の大学における韓国語教育の標準化に向けた参照基準」個人研究を展開していきたい。また、アフターコロナ社会における日本国内外の観光の現状と今後を追究していきたい。</p> <p>【研究業績】 ◆学会発表：「アフターコロナ時代における日本の観光立国の復活に関する考察」、2022年秋季聯合国際学術大会、2022年11月26日、兵庫大学、【発表抄録コピー添付】 ◆学会における討論者：「遠洋漁業の企業開拓史、南陽漁網を中心として」、2022年秋季聯合国際学術大会、2022年11月26日、兵庫大学、【学会プログラムコピー添付】</p> <p>◆講演会 発表者：田昌禾 発表年月日：2022年10月5日 題目名：多文化教育の実践的アプローチ 講演会名：2022東京韓国学校教科研究会研修会</p> <p>発表者：田昌禾 題目名：韓国の食文化 発表年月日：2022年11月16日 講演会名：2022年度順天高等学校Global Week</p> <p>◆社会貢献活動 韓国国際通商戦略研究院（研究員）</p>